



企業連携インタビュー

東京専門職大学（仮称）への期待

第1回 株式会社船井総合研究所 チーフ経営コンサルタント 栗山茂之氏

2018/6/13

-まずはじめに、お仕事内容を簡単にお聞かせください。

私立大学への経営戦略の立案から実行支援まで行っています。最近では専門職大学の設置に関するご支援についても関わっています。大学に対し、いろいろな角度から船井総研として総合的にご支援させていただき、イノベーションのきっかけを作ることができればと考えています。

-専門職大学についてどのような期待をお持ちですか？

現在の大学や専門学校では応えきれない「社会のニーズに対応した人材育成」に期待しています。専門学校では実務を専ら教え、大学は専門と教養を学ぶ場を提供していますが、今その両方を兼ね備えた、より実践的な能力を備えた人材が求められているからです。

-本学のカリキュラムの特徴として、5つの柱、事業化力などがありますが、これらについて、どのような興味や期待をお持ちになりましたか。

とても魅力的なカリキュラムだと思います。専門職大学は、専門性+マネジメント+イノベーション、に特徴があると考えています。その観点から、東京専門職大学の特徴の「事業化力」はとても魅力的なプログラムとなっています。

当社では医療介護分野のコンサルティングも手がけていますが、その担当者にヒアリングをしたところ、医療介護の人材には以下の3つの課題があるということです。

- ① 経営感覚に長けている人が少ない。
- ② 管理職として部下を教え、且つ引き上げるスキルを持った人材が少ない。
- ③ 他のコメディカルとの連携を図る上で、価値観の相互形成を図ることができる人が少ない。臨床で専門性を高めることは出来ても、価値観の相互形成を図ることが出来ないため、力を発揮できないスタッフが多い。

これらを備えた人材を育成するという点で、「事業化力」に力を入れるということはとても意味があると思います。





-本学では、2学科合同での授業を含め、多職種連携についても実践的に学びます。

多職種連携は重要なテーマですが、コメディカルそれぞれの目的が異なっており、個々人の価値観が違う、という背景があります。価値観の異なる人たちが連携する場合、専門性を専ら追求し臨床で自らの力を高めていく従来型のやり方では、中々うまくいきません。幅広い視点で経験を積み、相手の価値観を理解することは連携を進めることに繋がります。アクティブラーニング含め、チームで授業を展開する、といった内容は大いに期待しています。

-本学は医療福祉を専門としながら経営についても科目を充実させていますが、このような教育は、産業界から求められていると感じられますか。

とてもニーズは高いと考えています。例えば、小規模な介護施設でも、スタッフは10名程度は在籍しています。そこで年次を重ねていくと、経営的な視点で部下や組織をマネジメントできる能力が求められてきます。現在は、そのようなスキル・知識が必要になると、個人が独自に学ぶ、というケースが多いと聞いています。大学生のうちに経営分野について一通り学ぶということは必要だと思います。



当社にご相談いただくお客様には、開業したいけれど経営に関する知識がなく、自分ではなかなか出来ない、というケースも多いのです。学生の中には独立を目指す方も多くいますので、経営の知識は必要となると思います。

-本学は保健医療福祉分野のほか、経営分野や、美容や災害行政などについても必修で履修しますが、このような教育内容は、起業や新規事業展開に関与できる人材育成につながると思われますか。

キップリンガーが、今後10年で成長する職種の第4位に理学療法士をあげているように、潜在的な成長力がある分野だと思います。社内でディスカッションしたところ、理学療法士等は、施設等での施術が中心だったこれまでの働き方に対し、今後はデイサービスや訪問介護サービスなどを独立して立ち上げるなど、様々な働き方が出てくるのではないかと、という意見でした。

船井総研にはPTOTの資格を持ったコンサルタントも多く、それら資格保持者がコンサルティング先で専門の知識を持ちながら、経営を指導しています。このような働き方ができる人材を当社では確保したいと考えており、専門性を深めつつ、社会で通用する事業化力も身に着ける、トータルで医療福祉人材を育成するカリキュラムはとても魅力的です。



また、個人的には、美容と健康寿命には相関関係があるのではないかと考えています。青梅市に、入院患者に朝化粧と身支度をする、という療養型の病院があります。美を意識することから一日が始まるというやり方は、認知症を含め回復に繋がることもあるということです。この話を聞いたときに美容と健康寿命には関係性があると感じていたため、展開科目に美容を取り入れるのは良いと思います。

-本学が更に強化すると良いと思う分野や要素、科目などがありましたら、アドバイスをお願い致します。

これから専門職大学を含め、高等教育機関に求められる機能には、リカレントがあると思います。フルタイムの社会人が働きながら学べる環境を、ぜひ整備いただきたいと思います。有資格者が働きながら課題だと思っている分野等を解決するため、大学等で学ぶ機会が必要だと思います。専門性に加え経営について学ぶ、あるいは、学位を取得し国際通用性を持ち幅広く活躍できる人材となる、など、学ぶ機会の多様化を提供していただくことを期待します。



左側：大学開設準備室 事務局長 宮田雅之、中央：船井総合研究所 栗山茂之氏
右側：大学開設準備室 企画担当部長 宮地恵美子（文責）

インタビューにご協力いただいた栗山様、大変ありがとうございました。